

は、研究がまだ不充分であるから當分中止する。

たくないが致方がない、——常識！常識！と幾度も繰返して言ひたい。

■原色版『草花』はワットマン九ツ切。『新

風俗畫』は木炭紙大。「甲州の春」は一尺に一尺五寸大にして、場處は甲斐の菱山より笛吹川を下瞰せし處、遠くの雪の山は白峯連嶺にして、時は四月中旬。

■本號には太平洋畫會展覽會評を掲載する考なりしも、二十三日開會にて、それから書いたのではまた／＼發行が遅れるすると一部の讀者諸君からは小言が出るから畫評は來月號とした。

■六月は特別倍號として、今春太平洋畫會員の瀬戸内海旅行記を出す。講話及其他の記事も例の如く載せる。挿繪の原色版六枚は大下氏の筆、木版及寫眞版の數葉は同行の小杉、渡部、河合、中川、石川、其他二三氏の筆で面白いものが多い。

■挿繪も本文も倍になるので代價も倍になる。それゆへ前金切又は前金不足の方は至急に御拂込を願ふ、不足の方には上包に注意をして置く。

■質問、讀者の領分、需供案内等の投書を、同一用紙に認めたものは、其一つだけ取つて他は沒書にする。

■需供案内は三行と限つてゐる、三行以上になるものは沒書とする。何も十錢欲しいからでなく、さうしないと濫用されて困るからである。

■會友諸君から送られる繪は、あまり面倒な包裝にしないで置いてほしい。新聞紙に二重三重に包むで、其上細紐で貳重にもからむで、書留小包で送られるのがあつるが、そんな大切な繪はこちらも取扱に困るから、批評など受けによこさぬがよい。近い處の人なら自分で御持參になつた方がよい。

■横木のうつてない板を入れると、途中で折れて繪がいたむばかりでなく、此方から返送する時に困る、板を入れるなら横木をうつたものに限る、厚いボール紙が一番よい。こんな小ウルサイ事は書き

■太平洋畫會展覽會は四月二十二日を招待日として、二十三日から公開した。水彩畫の出品が百八十點程ある。

讀者の領分

■前號の原色版中澤先生の『吉奈温泉』は老練なる色彩實によい。大下先生の『春』が出ないのはがっかりした。バレット物語も無くて失望。併し三脚物語は實に面白い。每號出して下さい(千葉の青眼生)。

■轉居、東京市外太崎町下大崎三〇八、高橋松治。

▲本年八月初旬松江市に於て一週間全下旬廣島附近に於て一週間水彩畫夏期講習會開催さるべし講師は大下藤次郎氏なり詳細の規定は六七月號に發表さるべし

*

*

*

*

*

*